

上五島の遣唐使史跡

中通島には 8 世紀から 9 世紀にかけての遣唐使に関連する遺跡がいくつかある。そのほとんどは、島の西側にある青方と相可の地域にあり、使節団が東シナ海を横断する前に、補給と順風を待つために立ち寄ったと考えられている場所である。

遣唐使船は青方湾の南側にある**三日ノ浦**と**錦帆瀬**に停泊していたと考えられている。その水辺にある舟形の岩、**御船様**は、遣唐使や地元の人々の信仰の対象であったかもしれない。この地からは霊峰・山王山の山頂が見え、船乗りたちは山王山に航海の安全を祈ったのだろう。

また、青方湾の最奥部、現在の青方港付近にも遣唐使船が係留されていた。港のそばには遣唐使が使ったとされる**ともじり石**があるが、周辺が後世に埋め立てられたため、現在は水面から少し離れている。しかし、それでも満潮時にはこの石が波を浴びる。湾に注ぐ川の河口には、海の女神を祀る**姫神社跡**がある。776 年、悪天候のため引き返した遣唐使が、翌年の風通しを祈願して建てたのが始まりとされる。